

2021年9月27日

親鴨会会長メッセージ 「秋の一日」

個人的にはコロナワクチンの二回の接種を7月に終えたものの、住んでいる東京の緊急事態宣言は今月末まで延長されて、まだまだ落ち着かない日々が続きます。それでも、酷暑の夏は過ぎ、香り高い金木犀の花は終わり、イチョウの樹から銀杏が落ち始めました。秋も着実に歩を進めていることを体感します。

二週間ほど前にご近所から飼育ケースに入った鈴虫をいただきました。鈴虫を飼育するのは初めてです。餌はナスやキュウリの切れ端と鰹節粉を与える、直射日光にさらさない、ケース内の土を湿らせておく等、いろいろと飼い方の指導を受けて12匹の鈴虫が我が家の一員となりました。毎日元気に美しい鳴き声を聞かせてくれていて、特に夕暮れの鈴虫の音は一日の終わりを告げているようでとても癒されます。

いままでは秋を象徴する季節のキープレーヤーとして鈴虫の音を楽しんでいました。しかし、飼育するとなるといろいろ考えさせられます。ご近所からのメモには「10月半ばにはオスが死に、その後メスも産卵をして死ぬ・・・卵は来年孵化する」とあります。自然の摂理とはいえ、世代を繋いでいくという観点からの「飼育」の意味を再認識させられます。

あと半月、何かの縁で我が家に来たのですから、存分に食べて、鳴いて、楽しく過ごしてもらおうと思っています。彼らの一日は、私の一年と思いつつ、今朝も飼育ケースが置いてある部屋に行くと、元気な鳴き声が聞こえます。「おはよう」と声を掛け、私の秋の一日が始まります。

今年で第三回になる親鴨会天城セミナーを昨年同様オンライン形式で11月に開催することを計画しております。詳細は別途ご案内いたしますので是非ご参加ください。

親鴨会会長
内池 正名